

ハイイロクモバチ

Pompilus cinereus (Fabricius)

ハチ目クモバチ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

海岸砂丘地に生息するが、生息地は限定される。護岸工事や海岸後背地の開発により、生息環境が悪化している。

形態

体長はオス4~7.5mm、メス5~14mmである。体は黒色をしており、体には灰白色の微毛が密生する。アオスジクモバチに似るが、各肢脛節の距が乳白色であること、メスの前肢付節には櫛歯状の刺列が発達していることなどから区別できる。別名、ナミコナフキベッコウ。

国内分布

本州、沖縄、八重山諸島。

県内分布

加賀市塩屋海岸、小松市安宅、能美市小舞子、白山市倉部、羽咋市一宮海岸、志賀町大島海岸で記録があるが、一部の海浜では、護岸工事により近年、見られなくなった。

生態

比較的自然に恵まれた海浜植物帯に生息している。徘徊性のクモを狩り、砂中に穴を掘り産卵する。営巣は海浜植物群落内およびその周辺と思われる。

生息地の条件

本種のエサとなるクモやクモのエサとなる小昆虫類が生息できる海浜植物群落の多い砂丘地の存在が重要である。

生存の危機

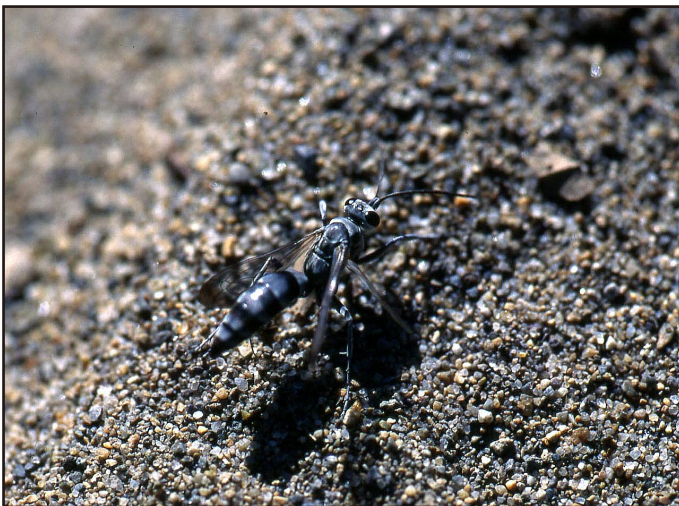
海岸浸食により砂丘地が狭くなったり、護岸工事により海浜植物群落周辺の自然環境が消滅すると本種は生存できなくなる。現に、小松市や能美市、羽咋市においては、護岸工事により海浜植物帯が破壊され、本種が確認できなくなった所がある。護岸工事の際には、海浜植物帯を破壊しないようにする配慮が必要である。(A)

参考文献

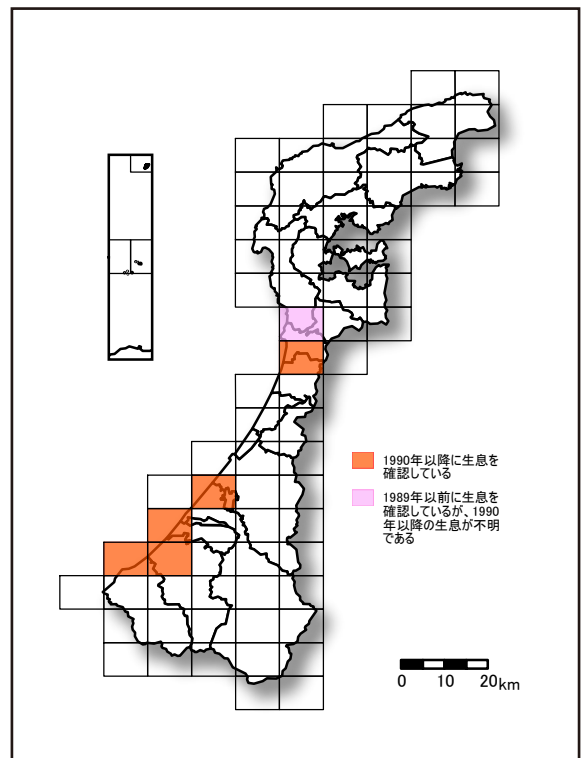
富樫一次 1994. 石川県産ベッコウバチ類について 福井虫報, (15) : 73-76.

富樫一次 1997. 石川県の海浜昆虫相(第1報) 福井虫報, (20) : 35-40.

平嶋義宏ほか 2008. 新訂 原色昆虫大図鑑 第三巻 : 570. 北隆館. 東京.



写真提供者: 富沢章



県内の分布